



## 2023年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年7月6日

上場会社名 株式会社イオンファンタジー 上場取引所 東  
 コード番号 4343 URL <https://www.fantasy.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 藤原 徳也  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼常務執行役員 管理統括 兼リスクマネジメント担当 (氏名) 井関 義徳 (TEL) 043 (212) 6203  
 四半期報告書提出予定日 2022年7月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年2月期第1四半期の連結業績(2022年3月1日~2022年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年2月期第1四半期	16,161	21.3	△325	—	274	—	△618	—
2022年2月期第1四半期	13,320	262.3	△1,760	—	△1,738	—	△2,090	—

(注) 包括利益 2023年2月期第1四半期 △752百万円(—%) 2022年2月期第1四半期 △2,047百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年2月期第1四半期	△31.28	—
2022年2月期第1四半期	△105.80	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年2月期第1四半期	53,732	10,990	20.1
2022年2月期	51,235	11,841	22.8

(参考) 自己資本 2023年2月期第1四半期 10,807百万円 2022年2月期 11,692百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年2月期	—	15.00	—	5.00	20.00
2023年2月期	—	—	—	—	—
2023年2月期(予想)	—	5.00	—	15.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年2月期の連結業績予想(2022年3月1日~2023年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	78,900	31.1	2,600	—	1,700	—	400	20.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年2月期1Q	19,768,825株	2022年2月期	19,768,825株
2023年2月期1Q	1,831株	2022年2月期	1,743株
2023年2月期1Q	19,767,062株	2022年2月期1Q	19,760,676株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	9
(会計方針の変更)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報)	10
(重要な後発事象)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当社は2022年4月、社会や子どもを取り巻く環境変化をもとに、企業に求められる社会的役割について検討を重ね、創業以来大切にしてきた社是に、より社会的存在意義への想いを加えた、「子どもたちの夢を育み、“えがお”あふれる世界をつくる。」という「パーパス」へと昇華させました。このパーパスを策定すると同時に、持続可能な社会への貢献と企業価値向上を実現する企業を目指してサステナビリティ方針を制定し、その実現に向けあらゆる事業活動を進めていく一歩を踏み出しました。

当第1四半期連結累計期間(2022年3月1日～2022年5月31日)における当社及び連結子会社の連結業績は、売上高が161億61百万円(前年同期比21.3%増)となりました。営業損失は3億25百万円(前年同期営業損失17億60百万円)、経常利益は2億74百万円(前年同期経常損失17億38百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は6億18百万円(前年同期親会社株主に帰属する四半期純損失20億90百万円)となりました。各国為替レートが円安に進み、為替差益を6億80百万円計上したことにより連結経常利益は黒字となりました。

当第1四半期連結累計期間における経営環境は、オミクロン株による感染再拡大の影響を受けた厳しい状況下でのスタートとなりましたが、国内事業はまん延防止等重点措置が3月下旬に解除されると徐々に売上の回復が進み、前期第4四半期連結会計期間から2期連続で営業利益は黒字を確保いたしました。第1四半期連結会計期間における営業利益の黒字化は3年ぶりとなります。また、アセアン事業における売上の回復も著しく、国内事業と同様に前期第4四半期連結会計期間から2期連続で営業利益の黒字を達成いたしました。一方、中国事業では政府による行動規制が強まり、多くの店舗で休業を余儀なくされ、売上が減少いたしました。

店舗数については、当第1四半期連結累計期間での新規出店25店舗、閉店6店舗となり、2022年5月末時点で国内531店舗、海外428店舗、合計959店舗(直営店949店舗、F C等10店舗)となりました。

## (国内事業)

国内事業は、好調のプライズ部門を中心とした売上対策を進めてまいりました。人気動画クリエイターとコラボした当社限定景品など話題性のあるアイテムを展開するとともに、お子さま向けの景品展開を強化し、プライズ部門の当第1四半期連結累計期間の売上高既存店前年同期比は114.5%と売上を牽引いたしました。同じく好調のカプセルトイ部門では、戦略的に出店を加速させているカプセルトイ専門店「TOYS SPOT PALO」を当第1四半期連結累計期間において新規に14店舗出店し、累計店舗数は98店舗となりました。カプセルトイ部門の第1四半期連結累計期間の売上高前年同期比は180.7%(2019年同期比534.4%)と大幅に伸長しております。

フルデジタル化の取組みとして、二次元コードを使いお客さまが非接触で店員を呼び出せる『デジちゃいむ』の導入を開始いたしました。また、業務システムへのログインを顔認証で行うSSO(シングルサインオン)を当社独自で開発いたしました。今後もデジタル化を推進し、生産性・利便性の向上とセキュリティ強化を進めてまいります。

当第1四半期連結累計期間は駅前ビルやホームセンターといったグループ外物件にモーリーファンタジーを3店舗出店、その他カプセルトイ専門店とプライズ専門店を計16店舗新規出店する一方、不採算店舗等3店舗を閉店し、2022年5月末ではF C 2店舗を含め531店舗となりました。

以上の結果、国内事業における当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高135億19百万円(前年同期比20.3%増)、営業利益44百万円(前年同期営業損失10億41百万円)となりました。

## (中国事業)

中国事業は、ゼロコロナ政策による行動規制が強まった影響を受け、多くの店舗で一時休業を余儀なくされました。4月中旬に全店舗の約半数が休業となりましたが、その後は規制が緩和された地域から営業再開が進み、5月末時点では約8割の店舗で営業を再開しております。

当第1四半期連結累計期間においては、不採算店舗等2店舗を閉店し、2022年5月末の店舗数はFC5店舗を含め197店舗となりました。

以上の結果、中国事業における当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高7億82百万円（前年同期比52.3%減）、営業損失7億2百万円（前年同期営業損失5億16百万円）となりました。

#### （アセアン事業）

アセアン事業では、政府による営業規制が緩和され営業再開が進むと、売上は急回復し、当第1四半期連結累計期間における営業利益は黒字を確保するとともに過去最高益となりました。休業を余儀なくされていた間にも、不採算店舗の閉店や賃料交渉を実施し経費対策をするとともに、お客さま満足度を高めるための従業員再教育やSNSで感染対策をPRするなど、営業再開に向け準備を整えてきたことが奏功いたしました。フィリピンでは当第1四半期の売上高は5億57百万円、既存店売上高2019年同期比122.4%と大きく伸長し、営業利益は2億36百万円と過去最高益となりました。フィリピンの他、マレーシア、インドネシア、ベトナムの計4ヵ国で営業利益は黒字となりました。政府による規制緩和が遅れていたタイも5月より営業再開が進み回復傾向となっております。

新規の取組みとして、ベトナムでは幅広いお客さまのニーズに対応するため戦略的小型店KID'S BOXを初出店いたしました。

当第1四半期連結累計期間は、6店舗を新規出店する一方、不採算店舗1店舗を閉店し、2022年5月末の店舗数はFC3店舗を含め231店舗となりました。

以上の結果、アセアン事業における当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高18億58百万円（前年同期比284.0%増）、営業利益3億33百万円（前年同期営業損失2億21百万円）となりました。

## （2）財政状態に関する説明

### （資産）

当第1四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、138億24百万円となり、前連結会計年度末に比べ29億5百万円増加いたしました。主な内訳は、現金及び預金の増加（18億83百万円）、売上預け金の増加（8億82百万円）であります。

当第1四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、399億7百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億8百万円減少いたしました。主な内訳は、投資の抑制による遊戯機械の減少（3億24百万円）及び使用権資産の減少（1億27百万円）であります。

この結果、総資産は537億32百万円となり、前連結会計年度末に比べ24億96百万円増加いたしました。

### （負債）

当第1四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、352億77百万円となり、前連結会計年度末に比べ37億67百万円増加いたしました。主な内訳は、短期借入金の増加（38億57百万円）であります。

当第1四半期連結会計期間末における固定負債の残高は、74億64百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億19百万円減少いたしました。主な内訳は、連結子会社における長期借入金の減少（2億14百万円）、長期割賦未払金の減少（1億40百万円）であります。

この結果、負債合計は427億41百万円となり、前連結会計年度末に比べ33億47百万円増加いたしました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産の残高は、109億90百万円となり、前連結会計年度末に比べ8億51百万円減少いたしました。主な内訳は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上(6億18百万円)、剰余金の配当による減少(98百万円)、為替の変動に伴う為替換算調整勘定の減少(1億72百万円)であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年4月8日に公表いたしました通期の業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,008,031	7,892,006
売掛金	232,656	275,454
売上預け金	303,081	1,185,815
棚卸資産	2,207,960	2,338,739
その他	2,168,124	2,132,921
流動資産合計	10,919,854	13,824,936
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	5,316,819	5,301,476
遊戯機械（純額）	18,708,947	18,384,245
使用権資産（純額）	3,796,074	3,668,885
その他（純額）	2,405,244	2,356,690
有形固定資産合計	30,227,085	29,711,297
無形固定資産		
のれん	146,866	151,363
ソフトウェア	1,326,946	1,414,340
その他	4,159	3,839
無形固定資産合計	1,477,972	1,569,543
投資その他の資産		
敷金及び差入保証金	4,374,139	4,467,349
その他	4,236,443	4,158,912
投資その他の資産合計	8,610,583	8,626,262
固定資産合計	40,315,641	39,907,102
資産合計	51,235,496	53,732,039

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,261,480	1,587,236
短期借入金	20,201,040	24,058,570
1年内返済予定の長期借入金	2,037,420	2,050,445
1年内返済予定の長期割賦未払金	559,719	561,363
リース債務	1,746,936	1,820,981
未払費用	1,441,349	1,787,887
未払法人税等	310,981	265,526
賞与引当金	263,721	431,205
役員業績報酬引当金	10,920	4,683
閉店損失引当金	24,121	30,797
設備関係支払手形	682,294	725,889
その他	2,969,412	1,952,453
流動負債合計	31,509,396	35,277,040
固定負債		
長期借入金	1,779,408	1,565,263
長期割賦未払金	2,207,469	2,066,510
リース債務	2,501,834	2,429,909
退職給付に係る負債	199,989	196,844
資産除去債務	928,810	963,284
その他	266,815	242,798
固定負債合計	7,884,328	7,464,611
負債合計	39,393,725	42,741,651
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,806,987	1,806,987
資本剰余金	4,825,630	4,825,630
利益剰余金	5,477,154	4,759,991
自己株式	△3,704	△3,897
株主資本合計	12,106,068	11,388,712
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△364,491	△537,203
退職給付に係る調整累計額	△49,145	△44,065
その他の包括利益累計額合計	△413,636	△581,269
新株予約権	31,437	31,437
非支配株主持分	117,901	151,507
純資産合計	11,841,771	10,990,388
負債純資産合計	51,235,496	53,732,039



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年3月1日 至2021年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年3月1日 至2022年5月31日)
売上高	13,320,412	16,161,015
売上原価	13,783,549	15,004,727
売上総利益又は売上総損失(△)	△463,137	1,156,287
販売費及び一般管理費	1,297,332	1,481,971
営業損失(△)	△1,760,470	△325,683
営業外収益		
受取利息	17,039	15,688
為替差益	139,638	680,290
受取保険金	4,503	4,170
固定資産売却益	100	141
預り金受入益	5,944	3,961
リース解約益	19,860	19,615
増値税還付金	—	1,103
その他	23,597	46,101
営業外収益合計	210,686	771,073
営業外費用		
支払利息	166,840	162,052
固定資産売却損	12,706	2,136
その他	9,602	6,560
営業外費用合計	189,148	170,749
経常利益又は経常損失(△)	△1,738,932	274,639
特別利益		
雇用調整助成金	6,350	895
特別利益合計	6,350	895
特別損失		
閉店損失引当金繰入額	13,932	7,676
減損損失	35,511	44,976
店舗閉鎖損失	557	5,445
店舗休止損失	544,063	521,850
特別損失合計	594,065	579,949
税金等調整前四半期純損失(△)	△2,326,647	△304,414
法人税、住民税及び事業税	53,962	185,781
法人税等調整額	△262,094	104,216
法人税等合計	△208,131	289,998
四半期純損失(△)	△2,118,515	△594,412
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△27,894	23,915
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△2,090,620	△618,327

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年3月1日 至2021年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年3月1日 至2022年5月31日)
四半期純損失(△)	△2,118,515	△594,412
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	66,545	△163,022
退職給付に係る調整額	4,871	5,079
その他の包括利益合計	71,417	△157,942
四半期包括利益	△2,047,098	△752,354
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△2,026,283	△779,642
非支配株主に係る四半期包括利益	△20,815	27,287

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業的前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財またはサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財またはサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、海外子会社等に対する遊戯機械等の代理調達に係る収益について、従来は顧客から受け取る対価の総額で収益を認識しておりましたが、顧客への財又はサービスの提供における役割(本人又は代理人)を判断した結果、顧客から受け取る額から仕入先に支払う額を控除した純額で収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しておりますが、当該期首残高に与える影響はありません。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高及び売上原価に与える影響は軽微であり、営業損失、経常利益及び税金等調整前四半期純損失への影響はありません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(重要な会計上の見積り：固定資産の減損)

当第1四半期連結会計期間において、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した「重要な会計上の見積り：固定資産の減損」について、以下のとおり仮定の一部を変更しております。

将来キャッシュ・フローの見積りにおいて、中国の店舗については、新型コロナウイルス感染症の影響による政府規制を考慮し、売上高の回復過程の見込について見直しを行っております。国内とアセアンの店舗については、将来キャッシュ・フローの見積りにおける仮定の変更はございません。

## (セグメント情報)

## I 前第1四半期連結累計期間(自 2021年3月1日 至 2021年5月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額(注)
	国内	中国	アセアン	計		
売上高						
外部顧客への売上高	11,195,389	1,640,867	484,154	13,320,412	—	13,320,412
セグメント間の内部売上高 又は振替高	46,815	—	—	46,815	△46,815	—
計	11,242,205	1,640,867	484,154	13,367,227	△46,815	13,320,412
セグメント損失(△)	△1,041,942	△516,985	△221,050	△1,779,978	19,508	△1,760,470

(注) 調整額は、セグメント間取引消去等によるものであります。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第1四半期連結累計期間に、「国内」セグメント1,549千円、「中国」セグメント12,803千円、「アセアン」セグメント21,158千円の減損損失を計上しております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 2022年3月1日 至 2022年5月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額(注)
	国内	中国	アセアン	計		
売上高						
外部顧客への売上高	13,519,097	782,919	1,858,998	16,161,015	—	16,161,015
セグメント間の内部売上高 又は振替高	575	—	—	575	△575	—
計	13,519,672	782,919	1,858,998	16,161,590	△575	16,161,015
セグメント利益又は損失(△)	44,040	△702,901	333,191	△325,669	△14	△325,683

(注) 調整額は、セグメント間取引消去等によるものであります。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第1四半期連結累計期間に、「国内」セグメント929千円、「中国」セグメント44,047千円の減損損失を計上しております。

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(会計方針の変更)に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの売上高の算定方法を同様に變更しております。

なお、当該変更による各事業セグメントの売上高に与える影響は軽微であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。